

2014年度 事業計画

2014年1月1日から2014年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

シマフクロウは、絶滅寸前の1980年代から、研究者や国によって給餌や巣箱の設置など保護対策が行われてきた結果、現在約140羽に増加しましたが、生息環境の保全は追いついておらず未だ絶滅の危機にあります。生まれた子どもたちは、交通網の発達等による緑の回廊の分断や河畔林の減少など、分散には絶えず危険が伴っています。かつては先住民アイヌの人々から、村の守り神といわれ人々の生活と深い関わりのあったシマフクロウは、食物連鎖の頂点に位置し環境指標となりますが、現在土地利用の変化などで棲みかを追いやられている状況は、とりわけ人間の子どもたちの将来の生活にも影響があることでしょう。

当団体は、シマフクロウの安定した未来のために、生息に関係のある地域が保護の取り組みを理解し一体となって活動に関わる姿が、私たちをはじめとした生きものが次世代も安定して暮らす環境維持につながると考えます。

法人設立から7年度目は、この活動に賛同する人々や企業、行政、団体等の共感の輪を広げ、社会課題としての重要性を広報するとともに、活動の基盤となるシマフクロウの調査・パトロール、給餌等保護・保全活動を行い、その成果や課題をより効果的に普及・啓発に活用していくベース作りに取り組み、環境教育等に活用し、生息に関係する地域一体の保護の取り組みを強化していきます。

<各事業の概要>

I 保護・保全・支援事業

1. 給餌

1) 補助給餌

シマフクロウの繁殖を補助することを目的に、おさかな寄付収入で活魚を購入し、専用給餌池に放流する。

2) 募金活動

活魚の必要性やシマフクロウの現状を広報し、共感の輪を広げる募金活動に取り組む。

2. 調査・パトロール

シマフクロウの保護・保全活動の適切かつ効果的な実施のために、その分布行動圏、生息・繁殖状況等に関して昨年度に引続き以下の調査に取り組む。

1) 生息確認調査

生息確認調査を行い、未繁殖地の発見に努める。生息情報等が寄せられた地域における生息確認調査を行う。

2) 繁殖個体と幼鳥の経過観察及び生息地のパトロール

繁殖及び生息が確認されている地域における成鳥や幼鳥等の行動調査を行う。また、生息地のパトロールを定期的に行い、繁殖等に影響を及ぼす事項等に注意を払う。

3) 繁殖候補地周辺における環境調査

繁殖候補地の環境(河川や河畔林等)調査を行う。

4) 募金活動

調査・パトロールの必要性やシマフクロウの現状を広報し、共感の輪を広げる募金活動を行う。

3. 植林

昨年植林した場所において、草刈り等メンテナンスや周辺の野生動物生息調査等を継続して行い、確実に根付ける植林を目指し生息環境整備を進める。

II 人材育成事業

次世代に続くシマフクロウの保護調査員の担い手をホームページ等で通年募集し人材の発掘を行う。

保護調査員の志望者においては、実践活動で育成に取り組む。

III 環境教育事業

シマフクロウをテーマとした環境教育「シマフクロウ学習」を生息に関係する地域の学校で実施し、普及・啓発を推進する。

環境教育や調査・研究に活用する小屋を建設する。

IV エコツーリズム事業

シマフクロウが直面する問題や保護の取り組みについて、体験を通じて理解や関心を深めるツアーを会員向けに開催する。希少鳥類との共生に向けたルール作りに役立て、収益の一部を保護活動に還元する。

V PR 事業

これまでの広報のあり方を検討し、シマフクロウが直面する問題やそれに向けた当団体の活動の取り組み等を的確に広報し、ビジョンを共有する仲間作りや支援の輪を広げ、成長発展できる組織を目指す。

1) インターネットによる PR

ホームページやフェイスブック、ブログ、団体登録サイト等を通じ、活動状況や支援状況等を広報し、普及啓発を推進する。

2) 印刷物による PR

- ・ 会員向けの会報を続けて作成し発行する。
- ・ 地域住民向けに普及・啓発を推進するチラシ等を作成配布する。

3) 会員・寄付募集による PR

ホームページやフェイスブック、ブログ、団体登録サイト、イベント、印刷物等を通じ、活動への賛同者を増やし普及啓発を推進する。

4) イベントによる PR

- ・ パネル展や講演会を開催し、普及啓発の推進を図る。
- ・ イベントに参加し、活動PRを行い関心層を広げる。

5) その他の PR

必要に応じて、新聞・雑誌等マスメディアで随時 PR 活動を行う。

以上